

0284					
0285	根拠に基づいた医学				
0286	P値	信頼区間	感度	特異度	バイアス
0287					
0288					
0289	文献				
0290	統計				
0291					
0292					
0293	今の主流	信頼性が高い	患者に説明しやすい		
0294					
0295	Pub Med 等				
0296					
0297					
0298					
0299	エビデンスがある				
0300	メタアナリシス	大規模ランダム化試験	エビデンス→エンビ		
0301					
0302	問題の定式化	情報検索	批判的吟味	患者への適応	振り返り
0303	批判的吟味、primary	PECO	ITT	RCT	double blinded
0304	多くの研究によって出された結果をもとにしている	根拠のある			
0305	経験	積み重ね			
0306	流行	EBMのわりにはよく変わるもの			
0307					
0308	根拠に基づく	良質な医療を共有できる	統計学的	分野によっては難しい	これからの医療の
0309					
0310					
0311	治療・診断の指針として標準とするための手掛かり	常に意識すべきもの			
0312	ネット検索	歪曲的吟味	患者への適用の難し		
0313					
0314	参考程度	必ずしも正しくない	根拠はデータのかたより	バイアスが見落されている時がある	困った時は使う
0315	明確な根拠があること				
0316					
0317					
0318	実際の成績	根拠	効率		
0319	エビデンス	文献			
0320					
0321	目安	窮屈さが少し感じられる法律	新しい医療を作るもの		
0322	実証	医療の根拠			
0323	正しい	有益な	治験	一般的な治療の普及	
0324					
0325					
0326	医療スタンダード	世界基準			
0327					
0328	誤解	参考	患者の決定権		
0329	論文	データ			
0330	データ	確率	実績	研究	有用性
0331	研究	分析	客観的		
0332	ジャーナル	有意差			
0333	ガイドライン				
0334	ガイドライン	EBMに基づいた治療			
0335	統計				
0336					
0337					
0338	信用の源	根拠	誤解	極端	わかりやすくわかり
0339	ある程度信用度が高い	ガイドラインのようなもの	経験ではない	研究が進めばわかり	医学的根拠
0340	エビデンス	診療の平坦化			
0341	治療を進める/勧める際の根拠				
0342	必ずしも正しいとは限らないが、あてにはなる				
0343	ROM	実例による報告			

0344	EBM自体なくても効く薬ある	論文で発表する時とかに都合のいい言葉			
0345	確実				
0346	科学的	根拠			
0347					
0348	大規模スタディ	メタアナリシス	ガイドライン		
0349					
0350	医療の質の確保				
0351	対象となる母集団が多い。	標準化されていることが多い。	絶対ではない。	医療の発展のために、良い意味でも悪い	
0352	多くの症例での傾向				
0353					
0354	科学的	経験には基づかない			
0355					
0356					
0357	患者に治療方針を説明する材料としてよく使う	ガイドライン			
0358	論文	訴訟	変化	world wide	治験
0359					
0360					
0361					
0362	ガイドライン				
0363	今のトレンド				
0364					
0365	治療根拠	ガイドライン	インターネット dynamed、Up to Date		
0366	大規模study				
0367	データに基づく	経験や勘ではない	診断方法	感度	特異度
0368	治療・検査の有用性				
0369	提示	資料	検討		
0370					
0371					
0372	パソコン	論文	難しい		
0373	客観性	I.C.	根拠に基づいた医療		
0374					
0375	患者中心	中小病院での利用	めんどくさい		
0376					
0377					
0378	現代では必須	準拠しないと裁判では不利	解離のあることが多		
0379	情報検索	情報管理	情報の選別	情報を確実なもの	
0380	幅広く一般的となつてしかるべきだが、一歩遅れている。				
0381	多数の症例	二重盲検			
0382	順番(First second line)	確かさ			
0383					
0384	大規模試験での結果	個人に当てはまるとは限らない	しかし個人に適用しても間違いではない(む)		
0385	Evidence based Medicine	生存率			
0386					
0387					
0388	感度、特異度				
0389					
0390	研究に基づいた治療	論文	最先端	臨床とは少しギャップ	安全性とは別もの
0391	大規模臨床試験	RCT	一次情報		
0392					
0393	非現実的	基本治療			
0394	Pub Med				
0395	総合診療部	内科	カンファレンス	Up to Date	Pub Med
0396	参考文献	製薬会社の陰謀	投薬過剰につながる	大規模臨床試験	Randomized、 Double-blind、
0397					
0398					
0399					
0400					
0401	信頼できる治療	根拠のある治療			
0402	メタアナシス	根拠、証拠			
0403					

0404					
0405					
0406					
0407					
0408	Evidence Based Medicine	経験ではなく論証			
0409					
0410					
0411					
0412					
0413					
0414	ガイドライン	大規模試験			
0415					
0416	統計	客観性	最近の情報		
0417					
0418					
0419					
0420					
0421					
0422	多施設、大規模に研究され、それを根拠に有益であることが有意に証明された治療				
0423					
0424					
0425					
0426					
0427	効果				
0428					
0429					
0430	治療方針の決定	論文	学会		
0431	マニュアル本				
0432	文献				
0433					
0434					
0435					
0436	理論的				
0437					
0438					
0439	櫻井恒太郎先生	風邪とビタミンC、漢方	NBM		
0440	マニュアル(化)				
0441	経験的ではなく根拠のある治療				
0442	研究結果				
0443	根拠	論文			
0444					
0445					
0446					
0447	科学的な証拠				
0448	確率論、科学的				
0449					
0450					
0451	世界基準	指標			
0452	根拠	治療			
0453					
0454					
0455					
0456	Evidence based medicine	根拠	臨床試験	分析	効果
0457					
0458					
0459	臨床試験	ガイドライン	オーダーメイド診療		
0460	EBMがないと治療をしてはいけないと思う。	臨床試験(EBM)→EBM!!			
0461					
0462	論文				
0463					
0464	患者問題の定式化	文献の検索	文献の批判的吟味	患者への適用	事後評価
0465					
0466					

0467					
0468					
0469	Evidence Based Medicine	根拠	理論		
0470	根拠に基づいた医療				
0471					
0472	データ	論文	実績		
0473	エビデンス	研究データに基づいている			
0474	医療における科学的根拠	統計的資料が多い	理想だが実践はまだ まだ難しい	数字のマジック	
0475					
0476					
0477	実証データに基づく医療	経験的医療に反するもの			
0478					
0479	根拠に基づいた治療(統計学的に)				
0480					
0481	証拠に基づいて医療				
0482	論文	Pub-Med	エビデンスのない診		
0483					
0484					
0485					
0486	治療効果	証拠に基づいた医療			
0487	研究	過去	データ	情報収集	最近
0488	研究	きちんと裏付けのとれた治療法			
0489					
0490					
0491	治療を行っていく上で必ず参照する	エビデンスあるものを重要視し用いる			
0492					
0493					
0494	コホート	症例対照	根拠のあるもの	経験ではない	ある程度信頼でき
0495					
0496					
0497	論文	二重盲検			
0498					
0499	根拠に基づいた治療				
0500					
0501					
0502					
0503	統計				
0504					
0505					
0506	論文などを調べて統計的な分析が加えられており、その調査、分析方法が客観的に信頼されるものを医療に活	専門家の意見、経験はEBMとはいえない			
0507	根拠	科学的			
0508					
0509					
0510					
0511					
0512	信頼性は高い	一般論である			
0513	ガイドラインに沿って分類・判別	majorな疾患に適応	世界で通用する考え方		
0514					
0515					
0516	問題点の提起	情報の収集	情報元の確認	かん元	
0517	文献検索	臨床応用			
0518					
0519	文献検索	patientへの適用	文献の信頼度		
0520					
0521	本当に信用できるか、エビデンスに基づくのか分からない				
0522					
0523					

0524	個人の経験に頼らない	患者様にある程度しっかり説明・情報提供できる	これだけに頼ってはいけない。個々の症例比較		
0525	根拠	%		アメリカ	
0526	統計				
0527	エビデンスベースドメディスン	信頼できる方法	今日の常識		
0528					
0529	スタンダード	画一化	均一化	Pub med	医中誌
0530	診療ガイドライン	メタアナリシス	頻度の多い疾患についての方が情報が充		
0531					
0532					
0533	無作為比較試験	治療ガイドライン			
0534					
0535					
0536	根拠に基づく医療訴訟に負けない治療法	一般的			
0537					
0538	エビデンス、有意差のある根拠				
0539	根拠に基づいた医療				
0540	根拠のある医療				
0541	信頼性				
0542					
0543	症例経験数	国内・外の症例報告	実際の経験よりも文献・報告より行う医療		
0544	理解	絶対性	普遍		
0545	大規模臨床研究	P value	オッズ比		
0546					
0547	根拠のある医療	王道			
0548					
0549	治療のstandard化				
0550	治療指針	統計	治療根拠	論理的	
0551	global standard				
0552					
0553					
0554	治療効果の信頼度評価	客観的指標			
0555	根拠に基づいた医療				
0556					
0557	治療法を決定する時に必要				
0558	根拠	治療方針決定における参考資料			
0559	均一化	普及	base lineを上げる	Cost削減	
0560	文献	批判的吟味	亀の甲より年の功、(医師の)年の功よりEBM	広く使われているにもかかわらず、理解のさいれ方は一定していない	国試に出てほしくない
0561					
0562					
0563					
0564	Evidence Based Medicine	経験じゃなくエビデンスに基づいてする医療	正しいもの	これをbaseに患者各々に適合した治療を選択するのが	
0565	データ	臨床試験	Standard		
0566	免罪符的に使われている気もする。	evidenceそのものも吟味しないと意味がない。	でも、そんなことしている時間はないので結局ガイドラインを見		
0567	論文				
0568					
0569	エビデンス	ナラティブ	エンピリカル	個別、個人差	
0570	文献検索				
0571	批判的吟味				
0572	Pud med	エビデンスレベル			
0573					
0574	RCTにより得られたもの	世界の多くの医師が適正と考える治療etc			
0575					
0576					
0577					

0578					
0579	治療として行う医療行為の根拠	大学			
0580					
0581					
0582					
0583	治療、診断の根拠	ガイドラインに沿った医療	大規模な試験	Evidenceにも様々なレベルがある	現代の医療
0584	統計	検索疑問の設定	患者への適用	バイアス	
0585	エビデンスに基づく医療	他施設共同研究	R-CHOP、R-CHOPとCHOPの比較	ブラヒボ	治験
0586	総合診療科	欧米	内科(感染症)	スタンダード	診断基準
0587					
0588					
0589	信頼できるのか				
0590	evidence	論文	推しよクラス	新しさ	対象の数
0591	治療法の選択	予後	論文	統計学	英語
0592					
0593	エビデンス	二重化盲検試験	無作為抽出		
0594					
0595	信頼できる				
0596	多すぎる	専門的	確実		
0597					
0598	効率	効果	均一化	標準	
0599					
0600					
0601	病名をコード化し統計処理しやすくする				
0602	ガイドライン				
0603	エビデンスに基づく医療				
0604					
0605					
0606	画一的	標準化	ガイドライン		
0607					
0608	診療のよりどころ	訴えられても負けない			
0609	データ	文献			
0610	確かなる根拠に基づいた治療				
0611	メタアナリシス	治療の根拠	スタディ		
0612	研究	根拠となるもの	EBMを完全に信用するなど言う上司の言葉		
0613	Meta-analysis	RCT	Gaide line	System review	
0614	根拠	固苦しい	形式ばった		
0615					
0616	信用できる				
0617	吟味する必要あり	時間がかかる	適応できるかどうか	なかなか使えない	ガイドラインだのみ
0618	正しそう				
0619	エビデンスに基づいた医療	ベースとする文献が人種などが違くと全く役に立たない			
0620					
0621					
0622					
0623	統計	Criteria	疫学	現代の医療	
0624	根拠のある治療				
0625	RCT				
0626	根拠	確かなこと	信頼できる	情報がすぐ変わって新しいものは努力しな	
0627	研究に基づいた証拠				
0628					
0629					
0630					
0631					
0632	Radaisad Control test	Meta Analysis	臨床試験		
0633					
0634					
0635	論文	治験	大規模		
0636					
0637	研究	RCT	大規模試験		

0638	統計に基づいた根拠のある医療	ガイドライン	メタアナリシスされたもの		
0639					
0640					
0641	大規模試験による結果				
0642	信頼性がある				
0643	95%以上の人に効果あり	根拠のある医療	一般的な見解		
0644	evidence	feedback	study	seareb	PC
0645					
0646					
0647					
0648	正確なデータ	EBMに基づく治療			
0649	根拠に基づいた治療	文献検索	QOL		
0650	根拠に基づいた医療	証拠	最新臨床情報	診療行為	新しい考え方
0651	裁判				
0652					
0653	世界に通用する	EBMを使う人は何でも「EBM」という	エビデンスがない先進治療について悪いイメージになりそうな	総合診療部がよく使う	
0654					
0655	推奨度	ガイドライン			
0656	ガイドラインの基	アウトカム	感度・特異度		
0657	統計				
0658					
0659					
0660	正しい	面倒だ	必要	安心	
0661					
0662					
0663	evidence	study	吟味して有用に使い		
0664					
0665	エビデンス	医療の均一化	治療のスタンダード		
0666	診断、判断の根拠				
0667					
0668	根拠	論文			
0669					
0670					
0671	Evidence1に基づいた医療				
0672	盲目的	多数			
0673	証拠	臨床研究	確立された治療法		
0674					
0675					
0676	文献検索	根拠	訴訟	標準	最先端
0677					
0678	メタアナリシス	有意差	前向き研究	コホート	オッズ比
0679					
0680	最もエビデンスのある治療を行なう	文献を調べる必要がある			
0681	論文				
0682					
0683	文献検索	メタアナリシスなど信頼(客観的評価のもと)できるデータを引用。	治療方針決定の根拠	常に情報は更新されている	患者さんの診療に活かすためのもの。
0684	名郷先生				
0685					
0686					
0687					
0688	理想的、信頼性				
0689	インフォームドコンセント	論文	説得力		
0690					
0691	根拠がある	信頼できる			
0692	医療の質を保証するもの	病院間、医師間での医療の差を減らすもの			
0693	evidence based Medicine	IC.に必要			
0694	医師の経験よりもデータ重視				
0695	効果が保障された治療(手)	世界的な常識	コンセンサスが得られ		
0696	一般的治療	必要最低限	コンセンサスあり	高質	固体数がはっきりし
0697	確立された医療行為				

0698	根拠に基づいた	研究結果			
0699	とても有用である				
0700	医学的根拠				
0701					
0702	大切とは思わない	めんどくさい			
0703					
0704	ガイドライン	文献の批判的吟味	患者アウトカム	メタアナリシス	バイアス
0705					
0706	根拠				
0707	信頼性				
0708	治療のスタンダード				
0709	一般的な治療	広く行われており、治癒する確率の高い方法			
0710	治療法を選ぶときの基準になるもの	現段階で最も信頼されるデータに基づく最良の治療			
0711	根拠	統一化			
0712	よくデザインされた大規模RCTの結果。	プラセボやコントロールと比べ有意に治療効果ありと認められた方法を「高いエビデンスのある方法」としてランクづけする。	疾患の取扱いに関するガイドラインを作成する際の根拠となる。		
0713	ガイドライン	スタンダード	RCT	共通	情報
0714					
0715	根拠に基づく診療	RCT	文献検索		
0716	最新の医学知識、研究テ				
0717					
0718					
0719					
0720					
0721	むずかしい	めんどくさい			
0722					
0723	根拠	信頼	調査		
0724	Evidence Based Medicine	難しい	利用しにくい	大切なこと	
0725					
0726	論文	科学的にみえる	納得できる	納得させる(ムリに)	確率
0727	エビデンス	治療	論文	適正使用	治験
0728	ランダム化が大事	EBMなしの治療はやりづらい			
0729	患者さんに合わせて、その時ベストの治療をすること	批判的吟味	検査の医療から考える医療へ	拠り所がなくなり悩みがふえる(治療opinion)	
0730	論拠となる論文や症例報告がある	臨床試験はバイアスがないこと	複数のevidenceがあること	evidenceをもとに治療方針を組み立てる	二重盲検法
0731					
0732	患者に合わせて考察できる	時間がかかる	稀な症例は難しい	めんどくさい、時間が	何が最善かわかり
0733					
0734	治療の根拠	大規模実験などによる効果の判定			
0735	根拠に基づく治療	世界的にスタンダードな治療	EBMのない治療はミスがあった時に不利と	癌取扱い規約	ガイドライン
0736	正確	限局的	データが多い	時間がかかる	
0737	標準的な治療	ガイドライン	調べるのに時間がか	大概の文献が英語	一部のDrはこだわ
0738	信頼性のあるデータ				
0739	最低限知っておき、常にその治療行為が検討に値する医				
0740					
0741	比較ランダム●●	メタアナリシスといった根拠の高い計画をベースにしたもの			比較ランダム試験、メタアナリシスといった根拠の高い
0742	経験が数字という武器を手に入れた	昔からある病気、治療法に対しては、多くの研究がされるため数字が出やすい	稀な疾患、治療法は症例報告として皆が発表しそう		
0743					
0744	立証されている	有効	広く用いられている	信頼されている	研究
0745	データに裏づけされた治療				
0746					
0747					
0748					



0749	全ての医者に同じ医療を求める				
0750	根拠のある治療	インフォームドコンセントの重要性	全ての治療は患者が決定	チーム医療、コミュニケーション大事	
0751	実績のある治療	理にかなった(過去の症例に基づく)医療			
0752	論文で得られた知識	自分の経験上の知識ではな			
0753	治療法がデータの集計によって確立されている				
0754					
0755					
0756	診断の根拠	経験的観測と相反するもの	国際的に通用する診断・治療の根拠	欧米で(主として)重視され始め、日本でも導	
0757	難しい	めんどくさい	個々を見る上で役立つが、柔軟な発想に		
0758	最近の医師の義務				
0759					
0760					
0761	統計学的論拠に基づいて医療を行うこと。	可能な限り客観的なデータに基づいて行われるので高い信頼性がある。	反面、個々の患者の個性への配慮は不足している(医師が補		
0762	論文	日常診療との分離	従来の方法の再検		
0763	治療	決定			
0764	臨床試験(大規模)				
0765					
0766					
0767	治療上必要なもの	説明上必要なもの	根拠に基づく医療	医師における基本方	標準的なもの
0768	文献検索	問題解決	断定的		
0769	認定案	治療指針	医療訴訟のない	インフォームドコンセ	正しい知識
0770					
0771	根拠に基づく医療	臨床研究	客観性	医療水準	治療方針の選択
0772					
0773					
0774	根拠	大規模研修	出すのが大変	面倒	
0775	医学的なことを説明する上での納得材料				
0776	論文	エビデンス			
0777	根拠に基づいた医療				
0778	医学的根拠				
0779					
0780					
0781					
0782	根拠	文献	説明と同意		
0783	メタアナリシス				
0784					
0785	パーセンテージ	知識の共有	経験の共有	自己責任	向上心
0786					
0787					
0788	スタンダード	訴訟	必要十分条件	治療	治療
0789	臨床試験	RCT(Randomized controlled trial)	有意差	P値	
0790					
0791					
0792					
0793	統計	evidence	based	medicine	
0794					
0795	Evidence of Medicine	experience of Medicineとの対比			
0796	根拠	医療	一般的に使用		
0797					
0798					
0799					
0800					
0801					
0802	メタ分析などによって、結論づけられた信頼されるエビデンスを最重要視した医療				

0803					
0804	根拠	信頼	確立	安全性	論文
0805	統計	疫学	エビデンス	治療方針	
0806					
0807	論文	大規模研究	臨床試験		
0808					
0809	患者本位	独断を回避する	客観的		
0810	EBMが実際どういったことを指すのかピンと来ない	統計学など学生時代にもっと勉強しておけばよかった	臨床に追われて時間をかけて診療情報を調べることができない		
0811					
0812					
0813	根拠	論文	Pub Med	Up To Date	マニュアル本
0814	情報収集	批判	分析		
0815	RCT	信頼に値する	earpilicではない	臨床研究	有意差
0816	実験	証拠	統計	無作為	
0817	エビデンスレベル	ランダムイズド	無作為割付	ダブルブラインド	
0818	あくまで理想の意見	経験に裏打ちされない若手の武器	理論武装	堅苦しい	
0819	印籠				
0820	一般的な治療かどうか				
0821					
0822	エビデンスに基づいた治療	公平に受けられる治療	悪く言えば幅のない		
0823	特になし				
0824					
0825					
0826	信頼度別分類	治療の指標となりうる			
0827					
0828	文献	教科書	5年生存率		
0829					
0830	エビデンス				
0831					
0832	Up To Date	総合診療部	「適当」ができない	教育に重きがある	
0833	文献調査				
0834					
0835					
0836	Up to date等の二次資料	電子教科書等			
0837	治療のbase	参考			
0838					
0839	信頼	統計学			
0840					
0841					
0842	特になし				
0843					
0844					
0845					
0846					
0847	データ				
0848	Clinicalパス	Pubmed	広く普及されている		
0849	確かなもの	確立されている			
0850	治療指針	画一化されたもの			
0851	きちんと分析し、効果ありなしをはっきりと解析してくれる				
0852	統計	一般化	適応		
0853					
0854	エビデンス(証拠)のある治療法	EBMがあるならそれ通りにした方がよいのかな	EBMっていうオーベンがよくいるけど…	あんまり自分は関係なさそう	
0855					
0856					
0857					
0858	Up to Date	最新	便利	基準	
0859					
0860	全ての基礎	しっかりした研究	昔の固定観念を覆す		
0861	研究				
0862	evidence based Medicine	根拠に基づいた医療			
0863					
0864	安心				

0865	統計	科学的	根拠		
0866	薬の効果	理論的でなく実測値			
0867	治療の基準	信頼性がある			
0868	統計学	論文	データ	分析	難しい
0869	根拠に基づく医療	メタアナリシス	RCT		
0870	研究や大量比較試験に基づいて	出された結果に基づいて行われる	治療		
0871	信頼性が高い	エビデンスがないと信用されない			
0872	信頼性				
0873	論文	実績	予後	細かい	患者の信頼を得ら
0874	証拠	基づいた	医療	アンケート	面倒くさい！！
0875	エビデンス	二重盲検法	統計		
0876	信用				
0877	エビデンス	論文	効果		
0878					
0879					
0880	数値で示される根拠がある				
0881	流行	統計	マニュアル化		
0882					
0883					
0884					
0885	大規模調査	多数派			
0886	エビデンスに基づいた画一化された医療				
0887					
0888					
0889					
0890					
0891	evidenced	based	medicine		
0892					
0893					
0894					
0895					
0896	名郷先生				
0897	RCT	統計	治療の指針		
0898	自分の関わったことのない疾患についても信頼のある程度おける治療が行える				
0899					
0900	E	文献検索			
0901					
0902					
0903	エビデンスに基づいた治療	信頼			
0904	信頼	スタンダード	研究者の意図		
0905					
0906					
0907					
0908					
0909	統計				
0910					
0911	医療のマニュアル	大規模臨床検査	統計	ランク付け	経験的医療を否定
0912	無作為ランダム化試験	参加人数の多い比較試験が必要			
0913	論文				
0914					
0915	論理・解析結果に基づく医療	診療の基本	治療方法選択にあたっての基本		
0916	メタアナリシス	二重盲検	標準化		
0917	安全性	再現性	治療		
0918	Up to date				
0919	定見のある治療指針	医療のマニュアル化			
0920	多数の文献による評価にて行われる	エビデンスレベルが分かれている			
0921	論文	データ	根拠	安全	安心
0922	根拠	正当性			
0923	Evidence	比較試験	臨床	医療の質を保つ	論文

0924	信頼	データ	多人数	臨床試験	標準治療
0925					
0926					
0927	経験に基づいた医療				
0928					
0929	信頼度	臨床に応用できる	経験	根拠	
0930					
0931	人生	家族	環境	性格	難
0932	エビデンス	臨床研究	信頼性は高い		
0933	治療方針の決定	病気の疫学	薬剤の効果		
0934					
0935	ARB	名目			
0936	科学的根拠	統計学	最新医療		
0937	根拠に基づいて治療する	経験的でない	世界的に共通のデータとなりうる		
0938	エビデンス	確率	有効性	治療の選択	
0939	癌取扱い規約				
0940					
0941	統計	優位差	コンプライアンス		
0942	治療方針の決定の参考になるもの				
0943	根拠	論文	研究	患者個人の背景を考慮して用いる	臨床現場への浸透はイマイチ
0944					
0945	エビデンス	訴えられない最低ライン			
0946	有用性の有無が証明されたものを医療として提供	経験値に頼らない医療			
0947					
0948	統計	理論	反論しにくい	ややこしい	選択の幅が狭くな
0949					
0950	証拠	融通が利かない	白黒はっきり	欧米的	研究
0951	RCT、医師の経験に優先するもの				
0952					
0953					
0954					
0955	結果を統計的に説明できる				
0956	経験だけではなくある程度のエビデンスに基づいた医療				
0957					
0958					
0959					
0960	大切であるが	一定しないため			
0961	難解				
0962	論文				
0963					
0964					
0965					
0966					
0967	エビデンスに基づく医療	ある一定のエビデンスは得られているが、必ずしも正しいとは限らない	経験的医療の反対	たくさんあるエビデンスから、Ptさんへ適応するのは何か考慮す	批判的吟味
0968	EBMに基づいた治療ができればまずは安心				
0969	科学的根拠に基づいた医療	たくさんの研究データ	世界規模の焦点		
0970					
0971					
0972	信頼	実績	正しい	それだけではうまくい	ケースバイケース
0973	根拠(論文等)に基づいた医療				
0974	治療方針を決定する根拠				
0975					
0976	ランダム化比較試験	メタアナリシス	ガイドライン		
0977	evidence-based medicine	科学的根拠がある	若い先生は気にするのに対し、上の先生はEBMより自分の経		
0978	研究と結果に基づいた医学				
0979	根拠に基づく医療				

0980	臨床的に最も信頼できる治療・診断法	普遍的な値・結果			
0981	エビデンスに基づいた医療	少し形にはまった	エビデンス		
0982	Randomized Controlled	Meta-Analysis	ガイドライン		
0983					
0984	過去のデータの利用	統計			
0985					
0986	根拠	ガイドライン			
0987	流行すぎ				
0988	客観性がある	説得力がある	バイアスが含まれている可能性がある	EBMIに基づいた治療をするべき、という意味で医師が当然知っ	
0989	RCT	Pub Med			
0990	学生時代の講義	研修医	勉強熱心な学生	専門家の意見はエビデンスレベルが低い	逆らえないもの
0991	Meta analysis	RCT	ガイドラインのbase	面倒	どこまで本当？
0992	確実	診療のもと	正確		
0993	最近はやり	1つの道(正しい)	多すぎ	知りたい、気になる	知っておくべき
0994	証拠	実際に使用してどうか？	正確性	エビデンス	治験
0995	感度・特異度	有意差			
0996					
0997	論文	臨床データに基づく医療			
0998	Evidenced base medicine				
0999					
1000					
1001					
1002	論文	統計			
1003	エビデンス	文献			
1004	アメリカ	医療経済			
1005	確かな医療	間違いの少ない			
1006					
1007	マニュアル	現在の標準的医療			
1008	根拠に基づいた治療				
1009	治療効果	プラセボ	感度	特異度	被検者数
1010	文献検索による治療法の適合性				
1011					
1012	臨床比較試験				
1013	感度・特異度	名郷先生			
1014					
1015	治療指針				
1016	論文	新しい概念	安全	画一的	
1017	治療方法の根拠	リサーチ	ガイドラインをつくるための根拠		
1018	わかりにくい	費用がかかる	足かせ		
1019					
1020	多数の比較対照試験の結果をまとめて	有効かどうかを判断したもの			
1021	Evidence	臨床試験	論文	研究	臨床応用
1022					
1023					
1024	論文	Supernatural	標準standard		
1025	Evidenceに基づいた治療をしましょう	経験だけで医療をしてはダメ			
1026					
1027	Evidenceに基づいた治療	臨床検査でEvidenceが認められている治療			
1028					
1029	あると便利	どこにあるか分からない	エビデンスに基づいた	世界共通？	
1030	科学的	最新	利用の仕方が重要	流動的	有用
1031	治療を考える際の参考にするもの				
1032	適切な医療	根拠に基づくもの	確実		
1033	論理的思考	客観的	普遍universal		
1034	論文	根拠となる実例	メタアナリシス		
1035	流行りの言葉				
1036	医療の均一化				

1037					
1038					
1039					
1040					
1041					
1042					
1043	質のよい論文を探す	より良い効果を生む診断法・ 治療法を検索して身につけ			
1044					
1045					
1046	empisicなものではなく、より しっかりしたもの	大事			
1047	大規模Studyに基づいている	標準的治療			
1048					
1049					
1050	研究	インターネット			
1051	製薬会社の商用主義	標準化治療	訴訟対策	循環器領域	
1052	Evidence Based medicine				
1053					
1054	客観的	インフォームドコンセント	インターネット		
1055					
1056	Evidence based medicine	Voturg partrcvlar	Csebull	Bacic	Point to see ceelrat to Ireppen
1057	論文	マニュアル	厚生省	研究	患者説明の際必要
1058	証拠に基づいた医療	無駄な医療をなくす	double blind test		
1059					
1060					
1061	evidence、RCT				
1062					
1063					
1064	自由な診療の邪魔				
1065					
1066					
1067					
1068	米国	訴訟	自己防衛		
1069					
1070					
1071	論文				

対象コード	Q13
	EBMについての自由意見
0001	疫学(学問)と薬屋の広告とか入りまざっている。集団アプローチと個別アプローチは
0004	本当に使いこなす人はほとんどいないはず
0006	使い方がはっきりと分かりません。理解できません。
0008	優秀な人は別ですが、全ての診療においてEBMを考えることは、余裕のない研修医にとっては厳しい。自分は、専門に進んでからは(3年目以降)EBMを全において常に考えようと思う。下級医(研修医)への、EBMでの論攻めは、単なるいじめ。
0011	実際に行われている治療が全て根拠に基づいたものであることを知ることは(学ぶことは)、興味深いです。
0018	evidenceを積み重ねていくことは非常に大事なことで、dataとして客観的にとらえることも大切だと思います。しかし、それにばかりしぼられていて、実際の現場でのみ感じられる「かん」や経験に基づく医療を排除していくような風潮だけではなくすべきであると思います。EBMやガイドラインに基づく医療のみが正しい医療、訴えられない医療というようにも考えられがちな現在の医療の方向性は少しずれているようにも感じられ
0022	データが蓄積されるのは良いことだと思う。
0026	どこまで行ったらevidenceなのだろう?という判断が難しい。上級医に一蹴されること
0028	微々たる有意差はあまり意味ないと思ってます。心不全のβ-Blockerくらいのは必要だったと思うけど、ちょっと偏重されすぎじゃない?
0036	EBMの基となる資料があるのならもっと教えてほしい。知らないし、知る機会もなかっ
0037	根拠となる症例の信頼性が気になる。
0039	教科書、マニュアルに沿って医療を行うことがEBMといえるのかわからない。結局、上級医の意見がより臨床にかなっているように思うことが多い。
0045	いろんなEBMがあり、結局どれが今のコンセンサスか全然分からない。それを知っている指導医もいない。
0046	人種差がstudyにおいては影響を及ぼすし、現場(特にICU)などでは、様々なバイアスがかかるので、「EBMがないと治療しない」というわけにもいかないと思う。
0053	常にup dateする必要がある。
0054	医療の水準を底上げするために推し進められるべきと思うが、錦の御旗として振りかざされ、内容がついてきていないと思うこともある。
0067	EBMは確かに大切だが、EBMの得られていない治療を試すことができなくなれば医学的進歩が得られにくい可能性がある。
0072	大規模試験でエビデンスが確立しているものはよくある疾患であり、目の前にいる症例での治療方針については、参考になるものが少ないし使う機会があまりない。
0081	この手の単語はもっと一般の方々にも理解されるようにするのが医療従事者の務めと思う、こともある。
0089	特にありません
0098	抗菌薬の投与方法(用量)は保険の問題もあってEBM通り実施できない。
0099	論文を読む際の批判的吟味という入り方をすれば研修医にも意義を感じやすいと思
0111	「evidenceがあるから間違いない」と言うのは、「あの先生が言うことだから間違いない」というのと同じだと思う。evidenceも所詮は切り口のひとつ、ある一方向からの視点という意識も普及させないと、evidenceがないと何もできなくなっちゃいそう。
0113	EBMも大事だが、経験則も大事なのでは?
0115	エビデンスという様々な論文から得られた結果のみに目を向けがちになってしまうが、論文の前提となっている条件も含めて吟味しなければ、目の前にいる患者さんに適用していいかどうか判断できない、というところがEBMの難しいところかと思いま
0117	・少なくとも研修の段階では本当の意味でのEBMを実践する場がなく、せいぜい文献検索にとどまってしまう。・日本と他国、理想と保険診療など、evidenceを活かせない場合が多く、結局一般臨床医は「ガイドライン臨床」に陥りがち。
0121	どのような場面でもEvidenceないことはなかなかできない。訴訟対策と思う時もある。
0125	研修医にはあまり関係ないと思う。
0146	情報を統一してほしい。人種差や、国内のstudy、ガイドラインを整合性のある日本語版EBMがあればよい。
0147	臨床ではEBMだけが全てではないこと、経験も少なからず重要であることを知って、どのように利用したらよいか実際にはわからない。
0149	適応患者がいれば安心して治療できる
0151	治療としてアートの部分が減っている。EBMに偏る科には魅力がなくなってくる。

0158	EBMの積み重ねでガイドラインができ、一般的な診療の仕方が広く知ることができるのは研修医にとってありがたい。
0160	実際に行うのはとても難しいと思います。
0175	調べることに時間はかかるが、これから行うことになっている治療、検査が必要なものか判断するのに役立つような手法。
0177	患者さんへの説明がしやすくなる
0179	EBMも統計のとおり方によっては信用できるかあやしい。
0180	EBMも大切だとは思いますが、多くの人の納得を得ることが可能で、積極的に活用しなければいけない。しかし、信頼区間はあくまで95%であることを理解するべき。目の前の患者さんは残りの5%である可能性も常に考え、EBMが全てではないと思います。
0189	なぜ、EBMジャーナルは終了になってしまったのか、それに代わる雑誌の刊行を求めます。
0194	過去の統計と研究結果から医療の是非を決めるということは非常に大切だと思うが、あまりこだわりすぎると良くないと思う。個体差があるため。
0197	自分の患者にそのまま適用できる研究データは限られており、患者への適用という部分をしっかり吟味しないと誤った解釈に当てはめてしまう危険性がある。
0208	選択肢を絞るツールであり、理由づけができるがまだエビデンスがない(調査していないもの)を選びにくくなる。永遠にEBMのためのdataを貯め続けなければいけない。
0214	EBMについての正しい理解が日本の医療に広まりますように。
0217	Evidenceは日々更新されていっているため、医療を施す側も常に目を配っていなければいけない。また、古くから行われている(慣例的の)ものとのギャップもあり、年上の医療者とともに行うことに困難が生じることもある。
0220	decision makingの手段であり必ずしも用いなければならないものではないと思います
0222	EVMがないことの方が多気がする。
0229	EBMの実践にはオンラインサイトの充実が必要
0232	確立し、信頼できる情報、根拠
0237	EBMという言葉が多用するあまり、EBMを理解せず、ただEBMに対して否定的になっている人もいる。また、EBMを強調するあまり経験による医療を否定している人もいる。両者は共存するし経験は検査前確率と思うが…、極端に考える研修医も周囲に多いので考え方を知るべきと思う。
0239	EBMの利用の仕方、論文検索はほとんど独学か伝え聞くことが多い。
0241	地域によりデータは異なるので、EBMは強調されすぎるべきでない。
0247	EBMジャーナルのような雑誌は必要
0248	要するに「〇〇が××に良い」だけ知ってればいいと思う。あんまり細かいのはわからねえ。
0253	特になし
0256	全ての保険医療機関が患者のデータベースを共有し、入力するようなシステムがあれば、画期的なEBMがいくつもできるのに…
0257	エビデンスをしきりに求めてくる上級医とは良好な関係・医療を行うのが難しい。
0272	大切なことはわかるが、具体的にどうすれば「EBM」に近づけるのかよくわからない。
0279	結局、evidenceにのっとって治療できる人なんてほんのわずか。
0281	今後より発展していくので、必要に応じて修得すべきと思う
0289	経験に基づく医療よりもEBMに基づく医療を行うことが大切
0303	EBMはとても重要、もっとどこの病院でもEBMで学ぶようにすべき
0306	あんまり頼りすぎてもいけないと思います
0312	特に患者への適用の難しさを感じます
0314	とてもいいものだと思う反面、万能ではなく、使い勝手はわるい
0319	医療者の義務
0326	EBMから外れたことはやりにくい。エビデンスを調べる方法をあまり知らない。
0328	言葉だけひとり歩きしている。使い方まで説明してはならないが、きちんと教えるようなシステムになっていないように感じる。
0331	EBMは大切だが、そればかりを重視して診療を行っていくことも無理だと思う。
0334	エビデンスの信頼性を判断する術を知らないで、個人的に勉強が必要です。
0338	outcome、試験の方法などにより、evidenceの元となる結果は、いろいろ変わってくることを理解したうえで、evidenceを利用しないといけないと常日頃から思っています。いかにevidenceを確実なものにするかで、EBMが成功するか否かが決まる気がします
0342	分かりやすくまとめている資料をもっとみんなに知らせてほしい



0344	臨床での薬品でよく使われているが、そもそもお金でEBMはつくれると思う。踊らされてる部分はある業界かな。
0350	「EBM＝ガイドラインを守る」ではないと思うが、そのような誤解を多々耳にする。
0355	具体的に症例毎にどのように応用していったよいか分からない。またその指導をしてくれる先生も身近にいないです。
0365	必要だが病院からのsupportがうすい
0368	あくまでも指標であって絶対ではない。
0375	周囲に専門医がいない時に、自分なりにその患者に対して解答を提示できる医療方
0378	生かし方がわからない(必要な場面等)
0396	薬を使わなくても大丈夫という減薬の科学を追求するようなEBMが必要。保険者がそうした臨床研究に資金を提供できるようにすべき。製薬企業の出資による研究に基づくEBMでは、患者にとっても医療財政にとっても負担が大きくなるばかりだと思う。
0416	アクセスしだすと時間をとられる
0425	知らない
0427	Evidenceのない治療もあるしせざるを得ない
0431	EBMにないことはできないという萎縮医療が心配
0447	特になし
0479	治療はEBMに基づかないものもたくさんある。
0497	必要。今後もっと広がっていく必要がある。
0506	研修医においてはEBMよりも重要なことが数多くあると思う。また、研究をある程度自分で行わないとEBMを正しく行うことはできないと思う。(情報が信頼しうるものかを判断する能力が必要であるから)
0512	EBMの信頼度は高いと思うが、一般的であり、まだ経験論の方が強く使われている気がする。
0523	自分の患者の疾患について治療方針を立てる際に文献を調べ、症例と比較検討を
0533	患者さんへのICに必要不可欠。
0536	各疾患ごとのEBMに基づく治療指針を各科ごとにまとめた小さい本がほしい。
0543	たくさんの症例報告や文献を読むことも大事だが、実際の経験＋症例数が大事だと思います。
0545	各病院の実際の診療とは必ずしも一致していない気がする。
0547	EBMは重要である。臨床の場ではEBMに基づかないことも多々あるという印象を受
0548	EBMの考え方は正しいと思うが、現場には合っていない。
0549	EBMをまずおさえて、その上で患者個別に治療を考えていく
0563	かたくて好きじゃないです。
0564	まだまだ浸透していない(特に古い世代)。Evidenceが何なのか知らずに我流でやり通している人が多い気がする。
0566	あんな教育では一定していないのは当たり前だと思う。そんな事考える暇があるなら医療費増やす努力をしてほしい。
0579	「EBM」とよく言うが、実際の医療現場では全く根拠のない行為がまかり通っている。
0585	EBMに基づくガイドラインを常にチェックする必要がある。
0586	自分でもよく理解できていない。それを理解するためのソースもわかっていない。
0591	特になし
0595	EBMないものはだめ、との意識のある上級医があれば、新しいことが何もできない。何でもEvidenceを求められ、幅が狭くなる。
0598	最もreasonable
0608	統計学が難しく、苦手意識がある。
0609	以前海外の文献でないと信用できないと言われたことがあるのですが、何をもちて信頼できるEBMと云えばいいか分からない。
0610	根拠のある医療のために必須である
0611	慣習や長年のカンではなくきちんとした根拠に基づく治療を行おうという方針はいいと思う。これからもどんどんエビデンスを参考に治療できたらいいと思う。しかし全ての事象についてエビデンスを立証するのは難しい。エビデンスだけに振り回される
0613	①「目安」に過ぎない。②「言い訳」
0614	化学的証拠がある医療を実践するには有意義だが、当てはまらないこともよくあるのでそのバランスが難しい。
0617	なかなか使いにくい。教科書のままや、雑誌にすぐ影響されます。
0624	細かすぎると実際から離れる。

0629	結局金をかけてstudyをした方がEBM得るため、そういったBiasはかかるが、必要不可解な発想。
0649	病気を治すことが大切ではあるが、QOLを重視して医療(EBMに基づいた)を行う必要があると認識している。
0651	EBMが絶対のような響きがあるが、金になる研究しか存在しないことを考慮した上で使う必要がある。
0671	汎用薬について調べる時間はない。Ex)ロキソニンの解熱に対する効果など
0676	どの程度実践されているものなのか、何が基づいていて、何が基づいていない治療なのか、目の前で進んでいる治療でわからないものも多い。
0683	国内外の小さな診療所から大きな病院のどこでも均一な医療が提供できる基盤及び、とくに小病院の情報広告のシステム作りが必要(重要)と考えます。
0688	今までのempiricな治療ではなくevidenceに基づいた治療により、臨床の全体の底上げにつながり、治療が適切に行われることで、患者の回復が早まる、あるいは確実
0696	エビデンスは最低限の基礎であり、それだけで満足してはいけないイメージ。
0697	特になし
0699	最近はかなり聞くような言葉だと思います。
0712	ガイドラインを無償でネット公開してほしい。
0715	EBMはもちろん重要だと思いますが、全てのことに対するevidenceは得られない。経験と文献の根拠がバランスよくあることが重要。
0720	臨床には適さない
0723	大切だと思うが、自分で調べるにはちょっと手間がかかっておっくう。
0725	EBMを理解しているつもりでも、実用までは現在できていない。今の自分では日々の仕事で手一杯なのが現状。
0726	あまり好きではありません。
0730	根拠となる試験が良質かどうかを見極めるのは難しいと思う。
0737	いつかはやらないと思うが、今は時間がない。また、初期研修は一般的に行われている治療を身につける時期だと思うので、そこまでやる必要があるかは不明。専門が決まったら、その分野について深く掘り下げる意味で使うべきだと思う。
0739	情報が多すぎて、多くは二次ソースから勉強しているが、それでも人・資料により内容の不一致があり迷う。
0741	厚労省に分かりやすいようにしてほしい。英語だと時間がかかるので。
0742	エビデンスのレベルに関して論じられることがあるが、必ずしも二重盲検試験ができるような病状でなかったり、進行が予想以上で予定通りの術式が出来ないことがある。治療を行うにあたり根拠は大事になるが、全てに高いレベルを求めるのは難しいのではないだろうか。
0745	乳癌のように他の疾患でも細やかなガイドラインがほしい
0752	EBMという考えを知って、論文の内容を気にするようになった。
0756	「Evidenceに基づいた医療を」と学生時代には当然のように教わりましたが、臨床研修において、Evidenceとされるもの自体に疑問点があったり、検査や病理診断における陽陰の判断自体に主観が含まれることを見聞きし、EBMの難しさを痛感するよう
0757	特になし
0761	医療行為の効果にデータの裏打ちができるので医療者側も安心して医療が行える。患者も支持のある治療が行なわれるので安心と思う。個々の患者さんにはもっといい方法がある場合もあるだろうが、今後研究が進めばよりきめ細かい医療が提供できるようになるのではないかと。
0767	良い医療のためには必要なもの
0768	診療上直面する問題に対し、全てエビデンスが用意されている訳ではない。
0777	データでは対処できない患者もいる
0788	最低限知らないとインフォームドコンセントできない
0789	英文を検索して読む手間を思うと利用しにくくはあります。
0793	具体的なイメージわきにくい。また、基礎的な知識ないのであまり有効に活かせない
0795	おじいちゃん先生には受け入れられにくい印象
0796	学習する機会がなかなかない
0802	エビデンスとして解析されにくい(されない)医療がないがしろにされているイメージ。
0819	知識のない患者さんたちにとって、統計学的に客観性のあるよい指標だとは思いますが、調べるのが面倒で何を調べればいいのか、まとまってない感じがするため使い

0832	まさに今、EBMを第一に診療をしている科で研修中ですが、毎日Up To Dateを見て、根拠を持って診療しています。逆に根拠なく新たな事を始めると、「エビデンスは？」と聞かれ、勉強にはなっていますが、いつもいつもEBMを気にしては常に調べてからでない診療できず、時間がかかる上、患者数が多いなど実際の業務が成り立たない時もあり、バランスが難しいです。
0837	治療の基本だが、あくまで参考程度
0838	具体的なイメージがはっきりしません
0849	EBMは大事だけれど、すべてそれでやっていくことは不可能
0850	年齢(高齢者について)での方針があまりないようなイメージがある。
0858	そのまま適用すれば良いというわけではなく、患者さんの価値観、希望をふまえて治療法を選ぶべきだと思います。
0862	その時の根拠に基づいているだけで、時代で変わるため信頼性が高いとは思えない
0868	“論理”のかたまりなので、その「考え方」になかなかなじみません。(どのような時にエビデンスがあると言えるのかetc)基礎がわかっていないせいでしょうか？
0869	実践できたらと思う。経験に基づいた医療に加味できたら良い。今のところ、教えられるに足る知識を持つ指導医が少ない。
0871	確かにエビデンスは大事だが、それだけでははかれない分野もあると思う。
0873	働く施設によって触れ方に差がある。小さい差が将来大きな差になるのだと思う。
0874	特になし
0875	広く一般的な医療指針を作成する上では良いと思う。
0877	エビデンスをまとめたものを作してほしい
0885	EBMがある治療だと安心できるが、EBMが見当らない疾患では頼るものがない不安が強くなる。
0896	EBMは大事だと皆が思っているが、実際にEBMに基づいて治療を行うことは(医師)少ない。経験で行っていることが多く見られる。そのため教育も適当になっている。
0898	例外が結構ある
0903	EBMは日本全国どの病院でもある程度は統一されていないと患者さんからの信頼を得られません。
0911	EBMの理解がまちまちなので、臨床医はもっと基礎的な勉強が必要だと思う。実際の先生方は「自分の経験=evidence?」に基づいて診療に当たっていることが多いよ
0924	よくわからずに使っている
0935	Evidenceも大切だがExperienceも重要
0937	Evidenceありきだとは思いますが、実際のところ経験的治療が多く、それに対して信頼する面が大きく感じます。
0939	治療方針を考察する機会が少ないため、意識したことがありません。
0948	治療や診断にかかわっているがために万が一医事紛争に巻き込まれた場合、自分の医療行為の正当性を主張する拠り所となる。何でもかんでもエビデンスを示さなければならぬ空気になるのがわずらわしい。
0951	いまいち使い方がよくわからない。結局マニュアルなど見て、治療を決めているので身近なものに感じない。
0967	EBMの論文などを読む時に統計がよく出てくるが、統計結果についてどう正しい判断をしていけばいいかが難しい。感度、特異度だけ見るといい検査だとしても実際は違っていたり、と。数字の見方が難しく思います。
0968	「EBMがある」といわれるまでには厳しい審査があると思う。実際は症例数少なくとも「効果があった」治療にすぎりつきたくなるものだと思う。
0969	EBMという言葉だけが先走りし、実際にどのようなものか知っていないように思うので、分かりやすい資料があると良い。
0977	実際臨床で上の先生はあまりEBMを気にせず治療しているのを感じます。EBMのことを聞くと「俺の診療や治療方針に文句があるのかい」のような雰囲気でした。
0986	論文でも同じようなことを調べていても違う結果になっており、何が根拠なのか分からないことがある。
0988	非常に診療上役立つツール。しかし、勉強するべきことが増えるという意味では医師の負担となる。
0990	適切に適用できるようになりたいです。ただ自分の経験も大事にしたい。
0994	守りすぎると治療できなくなる。
0999	正直EBMと言われてもイメージが直ちに頭の中には浮かんでこないのが実情です。
1002	細かすぎて個々の症例に適用できない。また、普段の研修で精一杯。

1003	何がEvidenceに当たるのか分からない。
1008	エビデンスはもちろん大切だがそれにとらわれすぎてもいけないと思う。柔軟で広い視野、考えが医療には必要。
1009	EBMの明確な基準(必要な被検者数等)がないので、それぞれのEBMをどこまで信頼して良いか分からない。
1017	よくエビデンスがあるとかないとかいう議論になるが、しっかり理解している人はほとんどいない印象(自分も含めて)。
1024	EBMに基づく診療は有用でかつ必要だと思われる。
1030	EBMに則って医療を行うことは大事だが、情報に吟味、目の前の患者さんへの適用についての考慮を行わないと良い医療にはつながらない。
1036	それぞれの学会がまとめてガイドラインを出してくれるのはいいことだと思います。(医療の質の向上につながるので)
1051	循環器や糖尿病、消化器領域など大きな医療資源が投入される分野で、データ蓄積は著しいが、まだまだ遅れている分野もある。科や疾患、年齢などでのデータの偏在
1054	マニュアルと一緒に、基本としてわきまえ活用できた上でその先にあるものを考え、トライしていくことが重要。エビデンスにない治療をする防げになるようだと問題かと。
1056	I stand in good position to EBM.We need more patient who ceen understand
1064	EBMのある治療だと説得力がある